

## 第 1 1 回 資源循環型施設建設候補地選定委員会 会議録

日時：平成 1 8 年 5 月 2 3 日（火）

午後 1 時 3 0 分～ 4 時 3 0 分

場所：清浄園 2 階 会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

4 議題

( 1 ) 建設可能区域からの候補地の抽出図、航空写真・・・・・・・・( 資料 1 , 2 )

( 2 ) 候補地の評価について・・・・・・・・( 資料 3 )

( 3 ) 余熱利用施設について・・・・・・・・( 資料 4 )

5 その他

6 閉 会

出席委員（15人）

栗田たか子	委員
宮原 則子	委員
上沢 忠人	委員
両角 秀	委員
若林 政夫	委員
金井 善男	委員
樋口 勲	委員
小山 敏子	委員
木口 憲爾	委員
表 秀孝	委員
藤原 信一	委員
下村 聖	委員
大井 一郎	委員
柳澤 旨賢	委員
山本 哲	委員

欠席委員 なし

出席者 事務局（10人）

上田市役所	廃棄物対策課	課長	田中 行房
東御市役所	市民課	課長	掘口 雅人
上田市役所	丸子地域自治センター		
	市民生活課	課長	堀内 親夫
上田市役所	真田地域自治センター		
	市民生活課	課長	清水 忠
上田市役所	武石地域自治センター		
	建設環境課	課長	掛川 兼司
青木村役場	住民福祉課	課長	中澤知賀雄
長和町役場	町民課	課長	丸山 敏和
上田地域広域連合事務局		事務局長	三好 健三
上田地域広域連合事務局	ごみ処理広域化推進室	室長	宮澤 俊文
上田地域広域連合事務局	ごみ処理広域化推進室	主任	塩入 学

出席者 コンサルタント（1人）

国際航業株式会社	公共ビジネス事業本部	環境統括部	
環境施設部		課長	尾葉石 優

開会（ 1 時 3 0 分 ）

1 開会

（事務局）

2 委員長あいさつ

（委員長）

3 自己紹介

（各委員）

（事務局）

4 議題

（ 1 ）建設可能区域からの候補地の抽出図、航空写真

（事務局）

資料 1、2 （ 1 ）建設可能区域からの候補地の抽出図、航空写真について資料 1、2 に基づいて説明する。

（委員長）

事務局から建設可能区域からの候補地の抽出図について説明してもらったが、中間報告書の記載されているとおり建設可能区域を 10 区域に絞り込みをした。その建設可能区域から候補地の抽出条件として 4 h a 確保できる面積であること、比較的平坦な地形であることを条件に地理情報システムにより 15 箇所の候補地が抽出された。

抽出された候補地について御意見をいただきたい。

（各委員）

特になし。

（ 2 ）候補地の評価について

（事務局）

資料 3 （ 2 ）候補地の評価について資料 3 - 1 に基づいて説明する。

（委員長）

評価項目として資料 3 - 1、1 ページについては、中間報告書に記載されている内容である。資料 3 - 1、2 ページについては、それぞれの評価項目を A・B・C として 3 段階の区分けした評価の基準である。

新たに追加する評価項目はないか、それぞれの評価項目の評価ランクが 3 段階で良いか、ランクの重み付けが 1・0・0.5、0.25 であるが御意見をいただきたい。

（委員）

総運搬距離についてもう一度説明していただきたい。

(事務局)

総運搬距離については、以前、候補エリアの選定でエリアごとの直線距離で総運搬距離の評価を行ったが、候補地を評価する総運搬距離については、まず、エリア別人口・年間ごみ発生量を国勢調査、一般廃棄物実態調査資料より算出します。エリアごとに年間ごみ発生量から運搬されるごみ収集車の年間車両台数が分かりますので、各エリアから候補地までの実走行距離の合計にエリア別の年間車両台数を乗じると候補地ごとに年間のごみ収集車の総運搬距離が算出されます。

総運搬距離が短いほど運搬効率が良くなることとなります。

(委員長)

エリアの評価では、エリア間を直線で距離を算出して評価したが、候補地の評価では、実際の幹線道路を走行した想定距離であるので、正確な距離に近い試算と考えられる。

評価ランクの重み付けであるが、項目ごとの配点に対して、Aランク1.0倍、Bランク0.5倍、Cランク0.25倍が良いのか、また、評価項目ごとにランクを分けなくて良いか。

今回の委員会で評価ランク数・評価ランクの重み付け、評価項目ごとの配点の重み付けをある程度決定し、次回委員会で実際に候補地の評価を数値化・順位付けして候補地の選定材料としたい。

(委員)

各評価項目のどの評価項目に重点を置いたほうが良いのか、非常に重要な問題であり、特に総運搬距離の項目は重要視するべきである。また、評価ランクは3段階のランク分けで良いのではないか。

(委員長)

12項目ある評価項目ごとの配点の重み付けの御意見もいただきたい。候補地の具体的な評価の状況について、まずは事務局に説明していただいてから議論したい。

(事務局)

資料3 (2) 候補地の評価について資料3-2に基づいて説明する。

(委員長)

災害危険の項目であるが、候補地抽出図15-1、15-2に緑色の線が一本あるが、活断層の疑いのあるリニアメントの線である。既に建設除外項目としているので、活断層等のある候補地については、評価を考慮しなければならない。災害危険の項目については、流域面積の大きさのみの評価としているので、活断層等についても追加評価したい。

15箇所の候補地について評価項目ごとに事務局から説明していただいたが、余熱利用については、この段階での評価項目としてはどうなのかという議論もあると思われる。また、評価内容についてどういう重み付けの配点・ランクにするかが、次の段階で議論しなければならない。

次回委員会では、評価を点数化することによって候補地としての優劣を判断することになる。評価項目の中で、特に重点項目として配点に配慮しなければならないことも考えられる。

(委員)

中間報告書の候補地の抽出条件として、周辺に緩衝帯が設置可能とあるが、十分考慮される事項であると思われる。また、過去の選定経過があり、この委員会で白紙の段階から検討されてきて、10区域に15箇所の候補地が抽出されてきているところではあるが、過去の反省も踏まえて、候補地11-1、11-2は除外として良いのではないか。

(事務局)

周辺に緩衝帯が設置可能というのは、緑地というイメージで考えています。また、緩衝帯ですが、面積として40,000㎡以上の候補地を抽出していますが、面積の抽出条件の中に含まれております。40,000㎡程度あれば緑地などの緩衝帯が設置可能であるということです。

(委員)

多くの方が中間報告書や中間報告書の概要を御覧になっていると思うが、候補地の面積となる40,000㎡程度以外の周辺地域を考慮した条件であると誤解されているのではないか。

(事務局)

立地の条件によって異なることもありますが、緩衝帯が設置可能であるという条件で抽出された候補地として御理解いただきたいと思います。

(委員)

積極的に情報公開されている委員会であるので、緩衝帯が設置可能であるというのは、地域住民等への説明で十分理解できることである。

また、評価項目で総運搬距離など環境負荷については、重点配分するべきと考える。

(委員長)

隣接地に環境負荷を最小限とするために、候補地となる40,000㎡の中に緑地を中心とした緩衝帯を設置するということがよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

先ほどの委員の御意見として、過去の選定経過は参考とするが、これにとらわれないことなどを確認していることなので、過去に強い圧力で反対運動があったとしても、これから候補地となる地域に、もし反対運動が出たので候補地から除外とすとなれば、候補地としての選定ができなくなる。

御意見はいかがか。

(委員)

これから評価項目ごとに細かく配点・評価していく段階では候補地から除外するという事は考慮しなくても良いのではないか。

(委員長)

もし、評価項目ごとに配点し、総合的に過去に選定された候補地が除外されたとしても、過去の選定経過が間違っていたということにはならないと思われる。過去に選定されている経過とこの委員会では、評価の重みを置いているところに違いがあり、特にこの委員会では環境に重点を置いているので、検討する時期によって重視する評価が変化するので、結論に違いがあるかもしれない。

この件についてはよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

いままでに配点の重み付けについて御意見をいただいたが、他の評価項目はどうか。

(委員)

土地利用の項目で、農地などの畑・水田については、農地を守るという観点からも評価を重視する必要があるのではないか。

(委員長)

いままでに、総運搬距離、土地利用について御意見をいただいたが、他にはどうか。

(委員)

余熱利用、文化財の位置については、この段階での候補地の評価としてはあまり重要ではないのではないか。

(委員長)

余熱利用、文化財の位置については、この段階での評価から外して、もう少し候補地が絞り込まれてからでも良いのではないかという議論もあると思われる。

先ほど、農地を守るという御意見があったが、同様の観点として生物への影響についても重点要素としたいが。

(委員)

東御市では、市指定の天然記念物としてオオルリシジミが生息していて、現在、守る会などの活動が盛んに行われているので、生物への影響について重視していただきたい。

また、周辺住宅等の状況についても先ほどの意見として候補地の隣接地には出来るだけ緩衝帯を設けてもらう観点からも考慮しなければいけないのではないか。

(委員長)

周辺住宅等状況については、当然、生活環境に及ぼす影響は大きいと考えられるので、重点項目として考えて良いと考えられる。

議論を整理すると、重視する評価項目として生物への影響、周辺住宅等状況、土地利用計画、総運搬距離の4項目についてご意見をいただいたがよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

現時点の評価ではなく、次の段階以降の評価として文化財の位置、余熱利用について評価したらどうかという意見があったがどうか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

文化財の位置、余熱利用については、この段階の評価項目としての点数化はしないということにしたい。

それでは、生物への影響、周辺住宅等状況、土地利用計画、総運搬距離の4項目について重み付けをどのようにしたら良いかの御意見をいただきたい。

A・B・Cランクともに配点だけ上げてしまうと評価の低いCランクまで評価が上がってしまうので、評価項目の全体に重み付けする配点するのはどうかと思われる。

A・Bランクのみ配点を上げたらどうかと思われるが御意見はどうか。

(委員)

重み付け作業は今回が決定ではなく、Aランクを2倍など事務局で算出してもらいたい。その結果、どういう順位付けがされるのかを検討したいと考えるが。

(委員長)

事務局の作業としてお願いしたいのは、Aランクが2倍の場合と3倍の場合により、候補地の順位付けの変動があるのかないのか確認していただきたい。その結果により候補地の絞り込みの判断材料としたい。

(事務局)

評価の方法については、いくつも方法があると考えられると思いますが、例えば、現在、空欄になっている重み付けをする4項目に10点ずつ配点し、その他は5点としてランクごとの倍数1.0・0.5・0.25を乗じる方法による合計値を求める方法。

もう一つは、ランクの重み付けを変える方法としてAランク10点、Bランク5点、Cランク2.5点などいろいろの方法が考えられますので、あまり倍数など多くすると評価方法が混乱する場合もあると思われます。

事務局では、2つの方法を考えたいと思いますが、1つ目として評価項目の重み付けされた項目の配点を2倍する場合で、A・B・Cランクをそれぞれ表のとおり1.0倍・0.5倍・0.25倍する方法と2つ目として重点項目のAランクのみを2倍する場合や3倍したらどのように候補地の順位付けが変動するのか次回までに出来るように準備したいと思いますがどうでしょうか。

(委員長)

ある程度、分かりやすい評価にして候補地の順位付けをしていただくということによるしいでしょうか。

(委員)

事務局の方法であるとするAランク評価の高得点化がされるとB・Cランクと差がついて、高得点とされた候補地にほとんど決まってしまうのではないかという危険性があるので、現時点では、時期が早急すぎるのではないかと考えるが。

(委員)

4項目の重点項目が決定されているが、重み付けをしない場合とA・Bランクのみを2倍した場合の2通りのみで良いので、順位付けが変化するかどうか作業をお願いしたい。

(委員長)

4項目決定された重点項目に対してA・Bランクを2倍とする場合と重み付けをしない場合はどのように点数化されるのか2通りを事務局に次回までの作業としてお願いしたい。



(事務局)

配点は空欄になっていますが、重点項目とその他の項目の2段階の配点でよろしいでしょうか。

(委員長)

先ほどの事務局の説明のとおり、配点は重み付けされている4項目については、その他の項目の2倍の配点となるようにとりあえず計算していただきたい。

(委員)

資源循環型施設の建設候補地を選定する方法を検討しているが、どの候補地になったとしても地域住民の方が理解を得ることがきわめて重要であると思われる。地域住民の理解を得るにはどうしたらいいかと考えると重み付けとして評価項目を設定し、選定方針を決め細かく提案してもそれだけでは理解が得られないのが現状であると思う。

候補地となった地域は関心があるが、候補地以外の地域は無関心であるというのも問題で、提言を予定している10月まで5ヶ月程度しかないので、上田広域全体の地域が資源循環型施設は必要であるという意識をもり上げていくというのが重要であると思う。

地域住民の理解を得るには、資源循環型施設の必要であるということが市民レベルで共有されることとごみ処理量を最小限にする努力を行政と広域全体の住民の意識が向上していくことを候補地に対して示していかなくてはならないのではないかと。

施設及び施設配置の妥当性については、既に資源循環型施設整備検討委員会において安全性・施設規模などを検討されているが、建設コストだけを抑えられても、後年度のコストが増大していくようであると問題ある。

検討されていない事項として提供し得る受益と波及効果も含めて地域住民に示していく必要性があるのではないかと。

(委員長)

とても大事なことであると思われる。建設コストについても運営形態をどうするか、公共で建設・維持管理していくのか、それとも、PFIなどの民間資金を活用していくのか非常に重要なことである。

また、上小地域全体の資源循環型施設が必要であるという住民への広報は、事務局で選定作業と同時に進められるように考えていただきたい。

(委員)

過去の選定経過については、いろいろあったが一番大事なことは、現在、稼動している3クリーンセンターの周辺地域住民の皆さんとそのほかの地域住民の皆さんとの健康状態に差があるのかということである。健康調査をしたほうが良いと思うが、安全な施設であるということをもっと地域住民に広報する必要がある。

(委員長)

地域住民との合意形成のシステムをどう構築していくのか、候補地が抽出されてこれから絞り込みの段階になるが、非常に重要な問題であるので皆さんも十分認識しておいていただきたい。

(3) 余熱利用施設について

(事務局)

資料4 (2) 余熱利用施設について資料4に基づいて説明する。

(委員長)

150tという資源循環型施設の余熱利用施設がどのような施設として活用されているのか、全国の施工実績に基づいて調査した結果であるので、今後の参考資料としていただきたい。

また、現在のごみ排出状況からすると150t/日の施設規模の能力を超えているので、上田広域の住民の皆さんにはごみ減量の協力をいただく必要があるし、ごみ減量の住民運動を展開していかななくてはならない。上田地域広域連合だけの課題ではなく、構成する各市町村のごみ減量の施策も強化する必要がある。

(委員)

ごみを焼却するうえで水の確保というのは、非常に重要であると考えているがどうか。また、生ごみの減量化についても上田市をはじめ各自治体の取り組みがあまりされていないのではないかと感じるがどうか。

余熱利用施設については、温室などの農業に活用したり、温泉などの浴場施設に活用されたり、そのような福利厚生施設もいくつかあるので、地域還元施設として早い段階で地域住民へお知らせしていくことが大事ではないか。

工業団地などが中心に候補地が抽出されているが、JTの跡地については検討されたのかお聞きしたい。

(事務局)

水の確保については、現在、優先して評価する項目の具体的な評価している段階であるが、中間報告書にも記載されているとおり、次の段階として追加して検討する項目に用水の確保について評価する予定であるのでご理解いただきたいと思います。

余熱利用施設については、委員会の中でも施設規模に応じた施設を今後御紹介していきたいと考えております。

JTの跡地については、基本的には除外地域を抽出する項目として開発予定がある地域について除外した経過がありましたが、JTの跡地については、JTによる開発予定があるということで建設除外地域として除外されております。

(事務局)

生ごみの堆肥化については、目に見える形として進んでいないのが現状です。堆肥化施設を建設して、堆肥化を推進していくことが大事であるかもしれませんが、各家庭が生ごみを分別することによる御協力をどのくらいいただけるか、上田市としても生ごみの減量化は非常に大事であると認識しておりますが、まずは家庭ごとの堆肥化に取り組んでいただけるような施策として電気式生ごみ処理、コンポスター、段ボールで簡単にできる堆肥化の基材もありますので、補助金などを活用していただきながら減量化を推進していただきたいと考えております。堆肥化施設については、民設民営で堆肥化施設を建設したい業者もいますので、とりあえず生ごみの堆肥化するモデル地区を設定しまして、事業系の生ごみも含めて堆肥化する取り組みが始まりました。上田広域全体として堆肥化するシステムを構築できるように推進していきたい。

ごみ減量化を推進していかないと150tの施設では能力オーバーかフル稼働の状態になってしまいますので、生ごみの堆肥化以外についても昨年12月から上田クリーンセンターについては、事業系資源紙ごみの資源化を実施しておりますが、今年度中に他の施設についても資源化する予定でありますので、上田広域全体の課題としてごみ減量化を推進していきたい。

(委員)

生ごみの堆肥化が進んでいないという御指摘があったが、私も含めてごみ減量アドバイザーとして地域へ出向いて、いかにごみ減量化の情報発信をしていくのか、行政から各自治会へごみ減量アドバイザーを活用するように依頼してもらっているが、すべての自治会に受け入れてもらえていないので、議員さんにもごみ減量化を地域に発信できるよう御協力いただきたい。

(委員長)

上田市においては、新しい分別方法の周知について全自治会を通じて各家庭に分別方法が普及されたこともあるので、行政の皆さんに普及啓発できるようお願いしたい。

## 5 その他

(事務局)

次回、次々回について日程調整表をお配りさせていただきましたが、FAXにて御回答いただき日程を調整していただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(委員長)

本日はこれで終了としたい。

## 6 閉会

(事務局)

閉会(4時30分)